

現状と課題

- ・ 仙台駅前エリアの魅力が減退。「仙台の顔」として魅力向上が必要
- ・ 沿道民地と道路空間が一体となった魅力的な公共空間の創出が必要

目的と内容

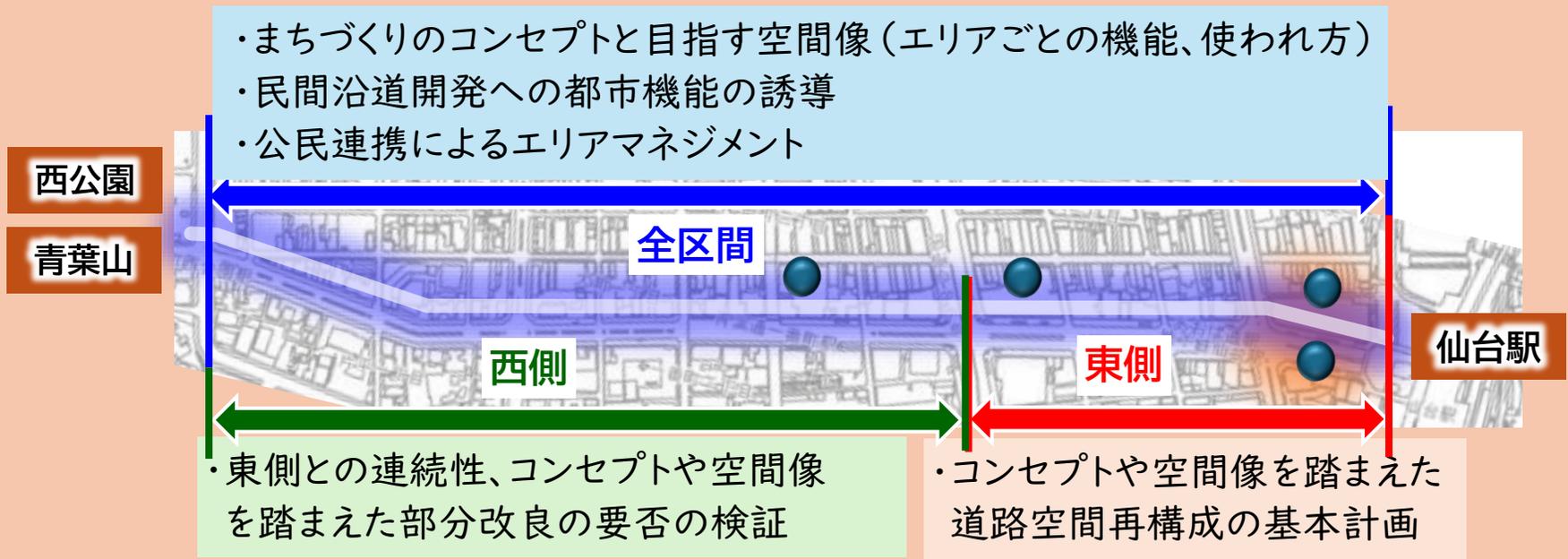
目的 公民が一体となった「シンボルロードである青葉通」「仙台の顔である仙台駅前エリア」の形成に向け、①～③を進めるため、「(仮称)青葉通エリア空間構想」を青葉通まちづくり協議会との連携により策定

① 共通ビジョンによる
公民連携のまちづくり

② 全体最適の考え方に基づく
機能誘導による沿道開発の促進

③ 魅力的な
道路空間の形成

内容



2. 青葉通エリア空間構想の位置づけと策定後の取組み

【あり方検討協議会】

●未来ビジョン

- ・ビジョンの理念をベースに検討
- ・対象エリアの拡大
(仙台駅前エリア→青葉通全体)

【まちづくり協議会】

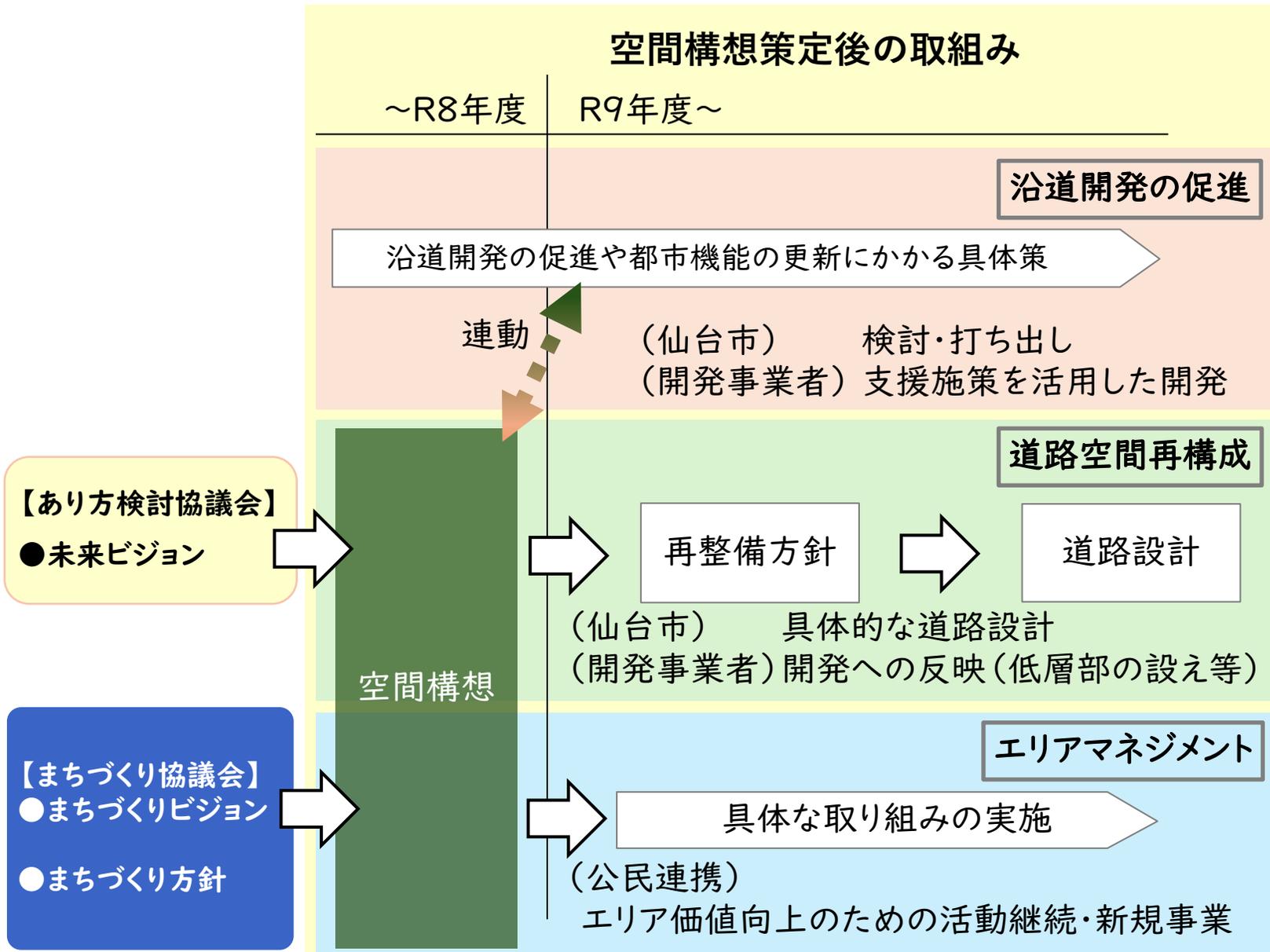
●まちづくりビジョン

●まちづくり方針

- ・社会状況の変化の反映
- ・機能誘導内容の具体化
- ・公民一体の空間構成の考え方の具体化
(道路空間再構成の考え方)
- ・公民連携による
エリアマネジメント体制の具体化

(仮称)
空間構想

2. 青葉通エリア空間構想の位置づけと策定後の取組み



目指すこと

- ・公民が一体となり
- ・青葉通エリアならではの価値をつくりだし
- ・その価値を継続的に向上させること

個別最適でなく、
全体最適を目指す
(敷地に価値なし、エリアに価値あり)

↓

エリアの価値向上

↓

結果として、
個別の利益も生まれてくる

3. 青葉通エリア空間構想の全体像（目標年次と検討の進め方等）

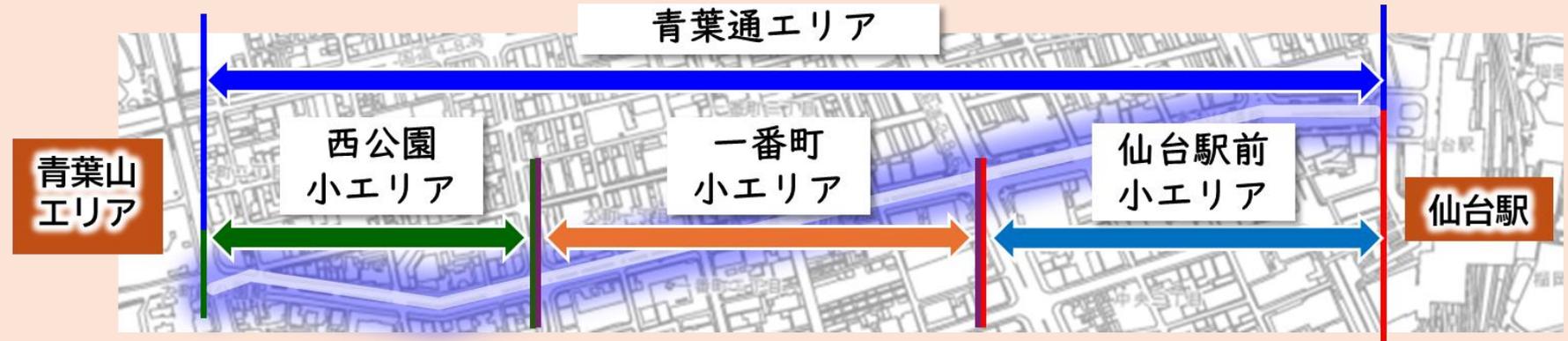
(1) 空間構想の目標年次

- ・ 沿道開発の具体化を見据えるとともに、
将来世代のための構想とするため、
目指す姿の目標年次を2040年頃に設定

2036年	伊達政宗没後400年。
2038年末以降	北海道新幹線 札幌延伸 開業予定
2047年	青葉通100周年 (1947年に河北新報社の市民公募にて名称決定)

(2) エリアの考え方

- ・ 対象エリアは、地区計画エリアと同じとする
- ・ 青葉通エリアの特徴を踏まえ、
エリア全体のほか、
3つの小エリアで検討を進める



(3) 策定体制等

- ・ 青葉通まちづくり協議会と連名で策定（令和8年度末を予定）
- ・ まちづくり協議会の会員を中心としたエリア関係者で構成する検討WGにて内容を議論
- ・ 沿道開発のタイミングを逃さないため、検討段階において、適宜検討内容を発信

3. 青葉通エリア空間構想の全体像（内容）

●公民で共有するまちづくりの考え方（＝理念・コンセプト）

- ・ 仙台市の各種計画、青葉通まちづくり協議会のビジョン、青葉通駅前エリアのあり方検討協議会の未来ビジョンを踏まえ、以下の（1）～（3）により目指すエリアのあり方を示す



(1) 道路空間再構成の基本計画

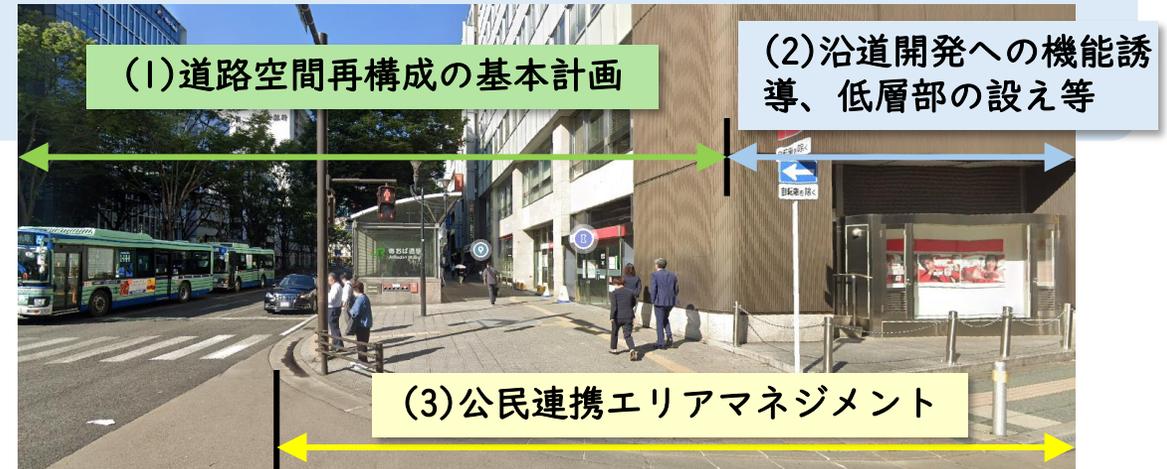
- ・ 各管理者や事業者と協議を進め、道路再整備方針（予備設計）に即時着手可能なレベルまで計画を具体化
- ・ 具体的な道路形状も踏まえたパースとして提示

(2) 沿道開発への都市機能の誘導や、沿道建物低層部の設え等に関する考え方

- ・ 都市機能を誘導すべき根拠や対象となる機能、低層部等の要件 等
- ※低層部要件：オープンスペース及び面する機能、緑化等

(3) 公民連携によるエリアマネジメント

- ・ エリアマネジメントの戦略や事業メニュー
- ・ 公民連携による取組み体制や仕組み、役割分担 等



4. 空間構想策定スケジュールと今年度の成果イメージ

R 7 年度内

今年度の成果は2回に分けて発信

R 8 年度内

9~11月

12~1月

2月

2~4月

4月

4~10月

11~1月

2~3月

検討

発信

検討

発信

検討・まとめ

発信

まとめ

・ データに基づく青葉通の分析
・ 高めたい、つくりたい価値の議論

・ まちづくりのコンセプト

市民向けフォーラム
検討状況を発信
(青葉通の分析、コンセプトの検討状況・過程等)

・ 目指す情景
↓イラスト化

市民向けフォーラム
検討状況を発信
(情景イラスト・コンセプト案等)

※イラストやパースも用いて表現
・ 公民連携によるエリアマネジメント
・ 沿道開発への都市機能誘導、沿道建物低層部の設え等
・ 道路空間再構成の基
本計画

市民向けフォーラム
空間構想の中間案を
発信

パブリックコメント

とりまとめ、策定

この後説明

R 7 年度末の
成果イメージ

渋谷での事例

「メディア」を軸に、NHKの周辺に多様な担い手が交流し、新たなコンテンツや事業が生まれ続けているエリア



R 8 年度末に示す
パースイメージ

沿道低層部

歩道活用

多機能ゾーン

道路形状

通行ゾーン

歩行者空間

御堂筋将来ビジョンの例

5. 青葉通エリア空間構想検討WGにおける議論

青葉通まちづくり協議会会員、青葉通駅前エリアのあり方検討協議会委員などのエリア関係者により構成する検討WGにおいて、空間構想策定に向けた各検討項目について議論を実施。（第11回協議会にて報告）

第1回検討WG（9月）

概要： 次回WGでの「青葉通エリアで『高めたい・つくりたい価値（=ゴール）』」の議論に繋げていくため、現状（強み・弱み）等についてのブレストを実施。

- 実施項目： (1)顔合わせ
(2)青葉通エリアの強みと弱み、強みの活かし方と弱みの改善方法について議論

主な意見：	強み・好きな点	みどり（景観）、象徴、歩道（広さ・綺麗さ）、青葉山とのつながり、東西でのエリア特性の違い
	弱み・イマイちな点	公共空間の活用不足、通りの分断・回遊面の課題、ブランディング不足、目的地がない（ランドマークがない、景観が単調）
	活かし方	みどりの強化、空間活用（コンテンツ・滞在空間づくり）、他エリアとのすみわけ
	改善案	歩いて楽しい・滞留できる空間づくり、ブランディング・情報発信、歩行者中心の空間づくり（車両制限・バスターミナルのビルイン化）

5. 青葉通エリア空間構想検討WGにおける議論

第2回検討WG（9月）

概要： 「高めたい・つくりたい価値＝まちづくりのゴール」であり、それを「分かりやすく発信するためのものがコンセプト」との整理のうえ、既存の計画なども踏まえ「つくりたい価値」について議論

実施項目： (1)仙台市の既存計画、まちづくりビジョン、未来ビジョン、社会実験概要、他都市事例等の共有
 (2)青葉通エリアで高めたい・つくりたい価値について議論

議論の内容

	青葉通エリア全体	駅前小エリア	一番町小エリア	西公園小エリア
事務局提案	風格、落ち着きを体験できる杜の都を象徴する <u>圧倒的な緑</u>	<ul style="list-style-type: none"> 東北の玄関口として、<u>多様な人が出会い、交流ができる場</u> 国際的な人材や企業のワーカーによる<u>ビジネス交流拠点</u> 	<u>商業や文化、市民活動を通じた出会いや交流</u>	居住者やファミリーが <u>落ち着いた・日常的な滞留や交流</u>
主な意見 (キーワード)	<ul style="list-style-type: none"> 手入れされた緑 経済価値の中心 回遊の起点となる滞在空間 周辺へ賑わい波及 防災ブランディング 	<ul style="list-style-type: none"> 学術・ビジネス交流 産学官連携拠点 多文化共生環境 地元企業との交流 集える緑地 交通利便性、玄関口 	<ul style="list-style-type: none"> ラグジュアリー 景観・グランドレベル センシャスな空間 地下道廃止 若者の取り込み 交流環境の創出 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史 目的地化とPR 遊び場整備 居住以外の視点

5. 青葉通エリア空間構想検討WGにおける議論

第3回検討WG (10月)

実施項目：(1)第2回検討WGでの議論（高めたい・つくりたい価値）の分析を踏まえ、まちづくりのコンセプト要素を提案

(2) コンセプト要素案についての議論

議論の内容(抜粋)

	西公園小エリア	一番町小エリア	駅前小エリア
目的地性	・目的を持って訪れるエリア		・目的を持たずとも集まれるエリア ・多種多様な目的で人が集まるエリア
特徴的なコンテンツ	・歴史や文化を感じられる ・周辺に魅力的な店舗 ・遊び場(西公園)	・高級店 ・裏通り、横丁	・多様な沿道用途 ・ビジネス街(特に銀行)
上質さ	・ラグジュアリーよりも <u>ノスタルジック</u>	・ <u>ラグジュアリー(=ハイブランド)</u> ・ <u>非日常</u>	・ <u>働く人にとっての</u> (働く場所としての) <u>ラグジュアリー</u>
可能性	・ <u>歴史や文化を感じられる目的地になりうる</u>	・ハイブランド店と裏通り、横丁との共存 ・ <u>センスのある個人店の立地</u> ・東北各県の地銀や <u>東北大学との連携による新たな産業の創出</u> ・東北から人を呼び込むポテンシャル	・とがったテーマを掲げられるエリア ・多種多様な目的の達成(落ち着いた活気) ・ <u>ワーカーが自然の中で過ごせる</u>
課題や手法など	・魅力の発信	・ <u>文化的な上質さ</u> の追求	・一番町エリアや西公園エリアへの <u>回遊のスタート地点</u> ・ <u>経済合理性</u> を追求

5. 青葉通エリア空間構想検討WGにおける議論

第3回検討WG (10月)

実施項目：(1)第2回検討WGでの議論（高めたい・つくりたい価値）の分析を踏まえ、まちづくりのコンセプト要素を提案

(2) コンセプト要素案についての議論

議論の内容(抜粋)

	青葉通エリア共通
目的地性	・駅前エリアから、一番町エリア、西公園エリアと西へ行くほど、目的地性が強まる。
特徴的なコンテンツ	・ <u>青葉山エリアの豊かな自然からつながる青葉通のケヤキ並木と広幅員道路</u>
上質さ	・ <u>空間を贅沢に使うこと</u> （余白の設計） ・ <u>本物の質感をもつこと</u> （ <u>手入れされたみどり</u> など） ・目的が達成された時の満足感、高揚感を得られること
可能性	・来訪者が集まり、 <u>交流が生まれる場</u> ・ <u>複数の要素・用途の共存</u> ・セントラルパークになれるポテンシャル（ゆとり、憩い）
課題や手法など	・小エリアごとに考えるのではなく、 <u>青葉通エリア全体を面で考えるべき</u> ・非日常イベント（単発的）ではなく、日常に（継続的に）人がいることがよい ・コミュニティスペースを青葉通沿道に集約していくことも有力 ・ <u>ダイバーシティの推進</u>

5. 青葉通エリア空間構想検討WGにおける議論

第4回検討WG（11月）

概要：客観的な視点（特に人と活動に着目）で仙台市や青葉通エリアを分析し、現状等の共通認識をもったうえで、改めて強みについて議論する。

- 実施項目：（1）客観的な視点から見た仙台市①「住む・働く・移動する」
⇒客観的なデータを「住む・働く・移動する」の視点で整理した案をもとに、
個人的な感覚との「ずれ」を議論
- （2）客観的な視点から見た仙台市②「世界・日本の中の仙台市」
⇒ （2）の整理を基に、改めて「世界に誇れる強み」について議論

5. 青葉通エリア空間構想検討WGにおける議論

第4回検討WG 2025.11.27

『人の活動』の理解を深める

データ分析結果から
解像度を上げて現状を知る

why
空間構想 なぜ客観的なデータがいるの？

価値は主観的 → 共通認識し
分析は客観的 → 対話の土台をつくる



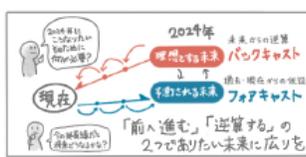
最も重要なこと
そもそも誰のための空間構想？

15年先の将来世代のために
今、私たちが出来ることを考えたい



どう考える？
不確実な15年後の未来のこと

今(フォキャスト)と将来(バックキャスト)の
住復しながら進めていく。



なぜ客観的データが主観を話すのか？

価値とは主観的かつ主観的

事実(データ)をどう解釈するか
共通認識(主観的データ)と客観的データ
全体最適解(主観的データ)と客観的データ



地域診断

現状を多角的に把握し地域の姿を丁寧に確認
共通の強みや課題を見つけ、共通認識をつくる

- ① 客観的なデータで見る。(検査)
- ② 主観的なお話を伺う。(問診)

グループワーク1

Plan-A 岡田 vs Plan-A 田中

① 住む・はたらく・移動するの考察と皆の感覚のちがいはありましたか？

② それはどんなところ？

エリア全体

3つのエリア
ひと括りに
ごまかさない。
個性的!

根強い
車文化
vs
ウォーカーブル

データと
感覚の
ギャップ

※ WGメンバーのゲストはそれぞれ特定の人物ではありません。

西公園と青葉通
つながりがやすい

青葉通全体で
まとめるのは
むずかしい

仙台駅と西公園
つながりが必要

個性のちがいがgood!
もっと強めて、
回遊の議論がすすむ

たぶん、西公園で
「人が少ない」ことを
個性として受ける。

行政指定都市であるため
車が多い
データに出ている？

車文化と
どう折り合い
をつけるのか？

個性が顕著に表れ
住居は増えている
→ 15年後も増えるのか？

学術大も移転。データに変化あり

飲食店の多くが
コロナ過で退場前に
移転した。

宿泊施設は駅前に
集中していると思っていた

5年前より
→ 15年後も増えるのか？

家賃が安い
若者の住み替え？
30代の転入も増える

学生も多く住んでいる
分譲マンションに郊外から
移住する若者

住人が少ない？

一番丁エリアに
学生は住んで
おらず通勤に
来ているのは
むしろ学生が多い？

個人事業主が多い
= 商業が多いはず
でも回遊は少ない？

商業エリアは
時間帯によっても
人の流れが異なる
(学生が中心)

駅前にはホテルやマンションが
増えすぎますよね？
(他エリアの回遊が低下)

(利用者像の問い)
打ち合せで駅前
に「来てごらん？」

東口の勢いも感じる。
その分駅前から
移転しなくなった。

現状は青葉通とのつながりが
弱く、まだ知識としては
違和感がある。

- データは扱いかたによっては嘘をつく。
- 人間の直感は意外と正しい。(理解や想像とちがう。)
- 分析を補正して**共通認識**をつくり土台に。
- その土台のうえで、何をやるか**施策**を考える。

青葉通エリアの基礎データ

住む・はたらく・移動するを**総合的に**考察する。

< 3つの小エリアは異なる個性を持つが、相互の繋がりが回遊性は低く、相乗効果はあまり見られない >

小エリア	3南公園周辺エリア	2一番町周辺エリア	1仙台駅前エリア	青葉通エリア全体
住む	・ 人が多く住んでいる	・ 両側には人が多く住んでいる	・ 住居は少ない	・ 世帯員数が小さい ・ 賃貸割合が高い ・ 転入率が低い
はたらく	・ 権利所があるくらい	・ 情報サービス業の集積 ・ 小売業の集積 ・ 個人事業主も多い	・ 銀行業の集積 ・ 小売業と飲食業の割合 ・ 大きな事業所の集積	・ 学術・研究、公務などは エリア外の駅まで立地 ・ 官公庁と教育・学習支援 業は少ない
移動する	・ 大町通りからの帰宅	・ 東北大学からの帰宅 ・ 近所からの通勤 ・ 買物・食事とも近所	・ 都心外周部からの通勤 ・ 都心コアからの業務移動 ・ 買物・食事の集中	・ 都心全体への実住者数は 構造的に ・ 約半数は地下鉄沿線から 都心内で回遊していない
気づき (課題と可能性)	・ 住民の高齢化と転入出、 そして資産運用への対応	・ 青葉通と周辺3つの区切 られた3つの範囲に分か れて、居住・業務・商業 が異なる課題で対応	・ 周辺との回遊性は必ずし も高くなく、小エリア内 で活動が完結しがら	・ 各エリアの個性をさらに つなぐ、回遊性を高める可 能性 ・ 仙台駅と東北大学のポテ ンシャルをエリアにさらに 引き入れる可能性

3つのエリア

西公園エリア
新築マンション増
回遊性の
ポテンシャル
新しい施設が
できる

一番丁周辺エリア
タワーマンション(増)
東二番丁小学校の
児童園
保険業は
回遊性が高い

仙台駅前エリア
はたらく(増)
交通利便性
回遊起点

学術大移転の
影響もある？

一番丁エリアに
学生は住んで
おらず通勤に
来ているのは
むしろ学生が多い？

個人事業主が多い
= 商業が多いはず
でも回遊は少ない？

商業エリアは
時間帯によっても
人の流れが異なる
(学生が中心)

駅前にはホテルやマンションが
増えすぎますよね？
(他エリアの回遊が低下)

(利用者像の問い)
打ち合せで駅前
に「来てごらん？」

東口の勢いも感じる。
その分駅前から
移転しなくなった。

現状は青葉通とのつながりが
弱く、まだ知識としては
違和感がある。

グループワーク2

テーマ 15年後に誇れる仙台の価値

社×都市

青葉通～青葉山
四谷用水
余白が残る都市
本社機能の誘致の可能性
気候変動で東京より住みやすく

緑の連続性は
他都市にはない
緑をまえる水・水路/歴史
資訊につかえる

防災先進都市

震災の経験 復興・防災の先進
面の防災訓練など都市レベルの強を
防災省の認識したい

公共交通の強化が必要

学術・研究の実証フィールド

学術都市
ウーブンシティのような実証都市
価値の流出・仙台に還元されるのか
学術研究をマネタイズできるのか

出たキーワード
緑 人が穏やか コンパクト都市
震災の経験 防災 学術研究 学徒
災害を見据えた都市づくり 水 四谷用水
余白 戦災復興 社

5. 青葉通エリア空間構想検討WGにおける議論

第5回検討WG（12月）

概要： 第4回検討WGに引き続き客観的な視点（今回は空間に着目）で仙台市や青葉通エリアを分析し、現状等の共通認識をもったうえで、コンセプトのベースとなる考え方の案について議論

実施項目： (1)客観的な視点から見た仙台市③「空間（建物と街路）」

⇒客観的なデータを「空間」の視点で考察した案をもとに、個人的な感覚との「ずれ」を議論

(2)青葉通エリアが担うべき役割の提案をもとに、

「ありたい姿」「担うべき役割」（まちづくりのコンセプトのベースとなる考え方）について
議論

6. 青葉通エリアのコンセプト案の検討状況について

・受託者による地域診断をベースに、空間構想検討WGでの意見を以下の通り整理

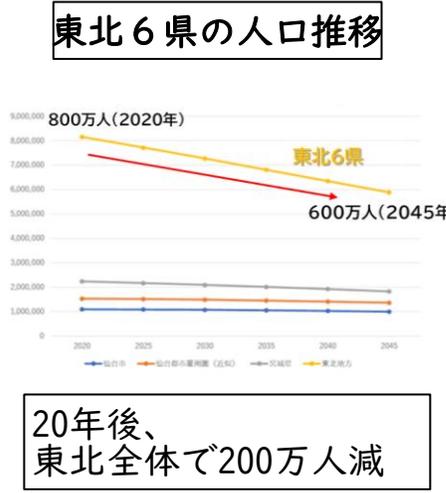
(1) 本市の現状と特徴の整理

- 東北・仙台の人口減少とともに、市内で生産できる付加価値額が縮小するリスクを抱えた産業構造
- 国際基準の研究力やレジリエンスノウハウ、暮らしやすさ等の世界に誇る資源を有している

人口が大幅に減少し経済が縮小する2040年頃を見据え、生活基盤を支え「暮らしの質」を守っていくために、付加価値を高めるべく地域産業の革新をしていく必要がある。

●社会課題

- ・東北全体で人口減少、中枢機能の縮小
- ・市内における働き手不足が懸念

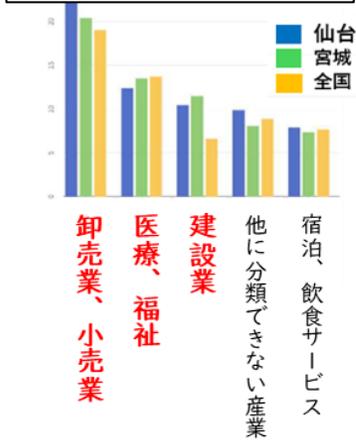


15~64歳人口比率
2025年 69.1%
2045年 59.0%

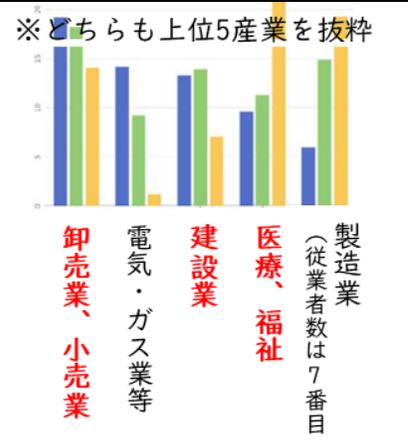
●本市の主要産業構造

- ・従業者数の多い産業の付加価値額が大 ⇒人口減による付加価値額縮小

産業別従事者数割合



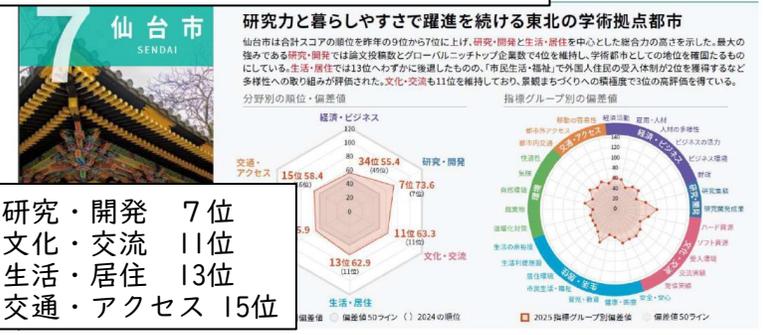
産業別付加価値額割合



●世界の誇る本市の主な個性・強み

- ・国際基準の研究力
- ・災害対応等のレジリエンスの知見
- ・暮らしやすさへの外部からの評価 等

研究力と暮らしやすさへの評価



6. 青葉通エリアのコンセプト案の検討状況について

(2) 青葉通エリアの現状と特徴の整理

(ア) 機能的特徴

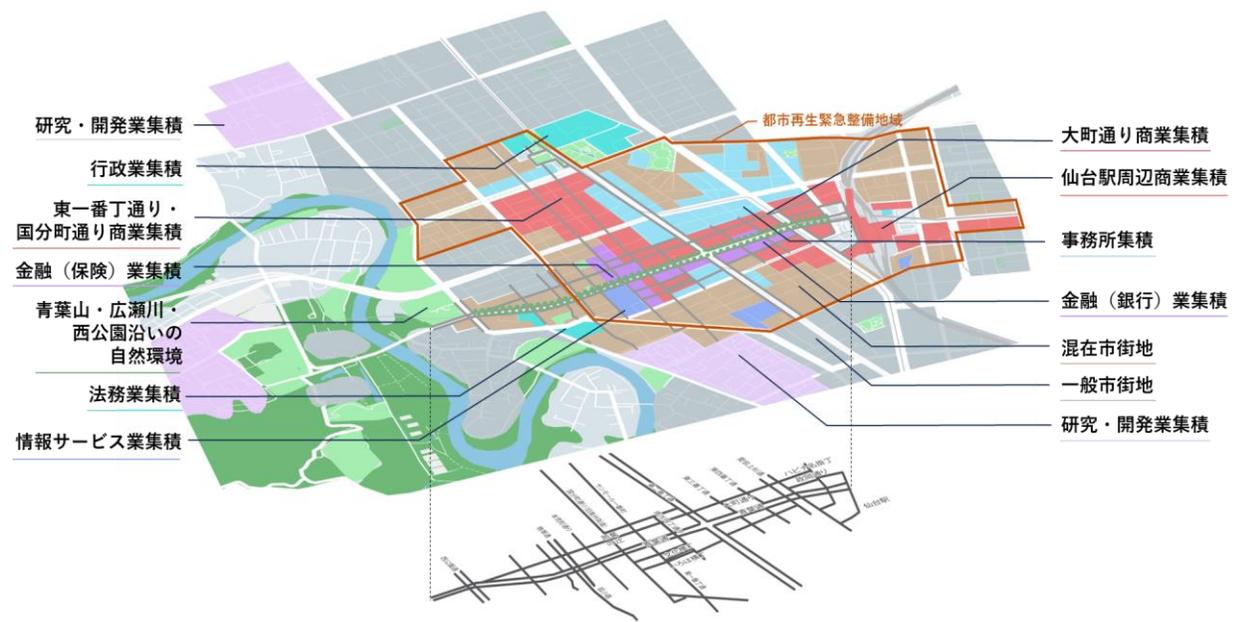
青葉通エリアには、中枢機能が集積

- ・金融・情報デジタル・研究・公務という革新を牽引しうる業種が集積
- ・域外交流と都心回遊を支える充実した交通インフラ
- ・文化的な暮らしを享受できる都市型の生活様式のポテンシャルがある

(イ) 都市構造的特徴

きめ細かな碁盤目状態の都市空間の中で、都心機能を東西・南北に結び、人の回遊と交流を促す都市の基軸

- ・仙台駅から青葉山を結び、都心を貫く東西の基軸
- ・碁盤目状の街路網によるヒューマンスケールの街区の上に、人の活動を支える個性的な近隣小エリアが形成
- ・回遊性やセレンディピティ（予期せぬ出会い）を促すきめ細かい碁盤の目状の歩行者空間



整った空間基盤の上に個性的な近隣小エリアが形成されており、多様な人々の活動がつながり、価値共創が起こるエリアとなっていくポテンシャルがある

6. 青葉通エリアのコンセプト案の検討状況について

(3) 青葉通エリアの役割の整理（歴史的な側面から）

仙台城下の経済の中心である芭蕉の辻、先進的な理念を体現してきた東北大学、戦災復興のシンボル「青葉通」と、青葉通エリアは、常に時代の先端・都市の中核としての機能や、「杜の都」の象徴を担ってきた。

青葉通エリアは、「杜の都」に象徴される「人の手で大切なものを未来につなぐ精神」を持って、仙台・東北を牽引する「新しい価値」を生み出すエリアを目指す

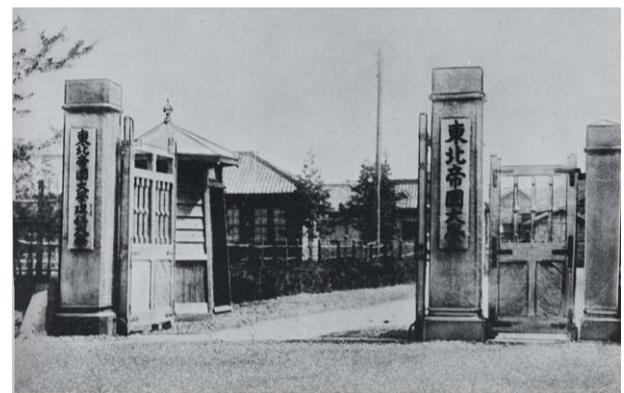
【芭蕉の辻】

- ・江戸時代の城下の中心
- ・経済の核を形成したエリア



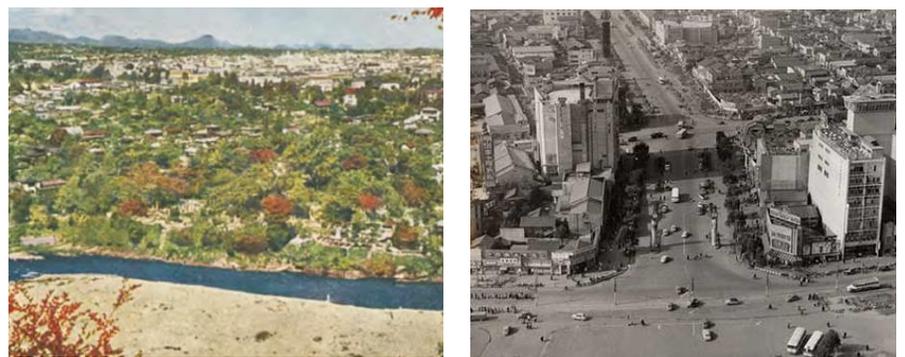
【東北大学】

- ・日本初の女子学生入学を許可
- ・「門戸開放」の理念は「東北大学 DEI推進宣言」として発展。
- ・国際卓越研究大学に認定(日本初)



【青葉通の整備（戦災復興事業）】

- ・伊達政宗公の時代からの「森の都」の緑を新たな形で再生
- ・近代都市として再生の象徴・市民の誇り



6. 青葉通エリアのコンセプト案の検討状況について

(4) 青葉通エリアのコンセプトのベースとなる考え方

青葉通エリアの
位置づけ

現状と特徴

- 常に時代の先端を担うとともに、「杜の都」を象徴する役割を果たす。
- 都心全体のさまざまな活動を結び、仙台と世界を繋ぐ。
- 碁盤目状の街路網の上で、個性的な近隣（エリア）を相互に繋ぐ。
 - ・金融や交通など東北経済の中核機能を担う仙台駅前エリア
 - ・住むと働くが混在する一番町周辺エリア
 - ・青葉山に近い西公園エリア



ありたい姿

「杜の都」に象徴される「人の手で大切なものを未来に繋ぐ精神」を持って、青葉通を都心部の背骨としてまちをつなぎ、仙台・東北を牽引する「新しい価値」を生み出すエリアを目指す

担うべき役割

ひとをつなぐ背骨として、

「新しい価値」を生み出す場となることを目指す。

- ・仙台駅と東北大学のポテンシャルをまちへ繋ぐ（→世界との交流を促進）
- ・金融や学術・研究などをいかした共創を生み出す場となる
- ・仙台の顔となる公共空間の設え、歩きたくなる街路網を強化（→ひとの交流を促進）

6. 青葉通エリアのコンセプト案の検討状況について

(5) 駅前小エリアのコンセプトのベースとなる考え方

●現状と特徴

大きな事業所や銀行業、小売や飲食業などの都市機能が集約されたエリア。

一方、小エリア内で活動が完結しがちなエリア。(仙台駅周辺の人の集まりを都心部へ送り切れていない。)

大規模事業所従業者数



東西自由通路とペDESTリアンデッキでの回遊がメイン



ありたい姿

仙台の顔として、中枢機能が集約された東北の玄関口となるエリア

新しい価値：ゲートウェイの価値

あらゆる来訪者を歓迎し、送り出す「東北の顔」となるランドマークとして、ビジネス・観光のゲートウェイとしての価値を磨く 等

●担うべき役割

交通結節機能に加え、仕事や観光などで市外から訪れる人を歓迎するランドマーク(目印)となることで、青葉通の奥へと進んでいきたくなるようなエリアを目指す。

【今後の検討内容】(全エリア共通)

① 道路空間再構成 ⇒ 駅前通～東二番丁通：道路整備の基本計画
⇒ 東二番丁通～西側：リニューアルの要否

② 沿道開発への都市機能誘導、建物低層部の設え等 ⇒ 誰によるどんな活動を誘発したいのか？

③ 公民連携によるエリアマネジメント ⇒ 価値向上・維持に必要な事業、その仕組みや体制は？

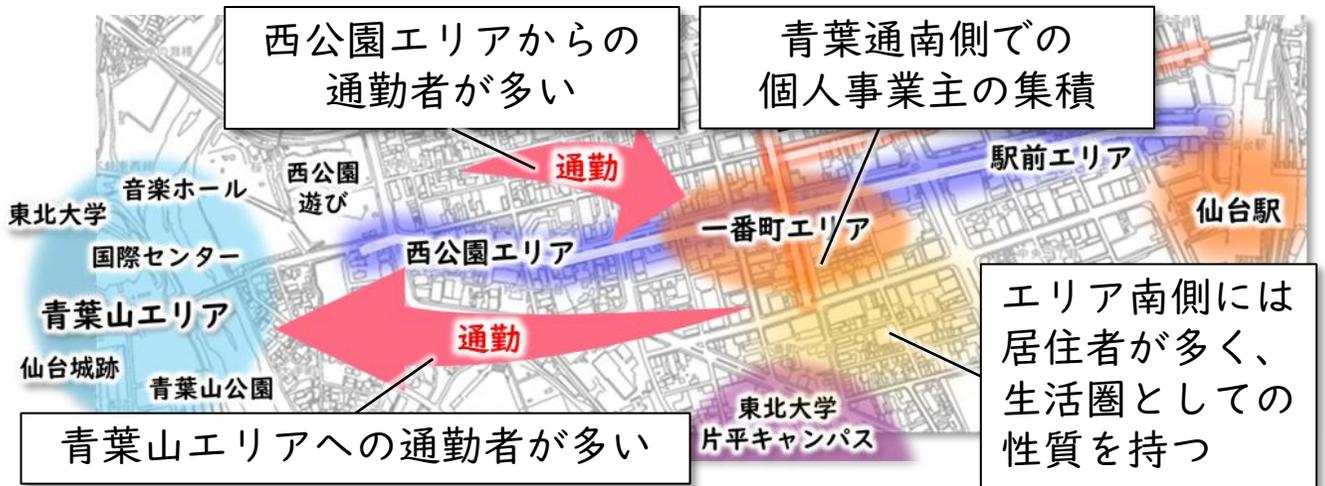
6. 青葉通エリアのコンセプト案の検討状況について

(6) 一番町小エリアのコンセプトのベースとなる考え方

●現状と特徴

小売業、個人事業主や中小零細企業が多く、南側には多くの人に住んでおり、通勤してくる人も行き来する。

東北大学片平キャンパスやアーケードと接続し、様々な主体による異なる活動が混合するエリア。



ありたい姿 青葉通エリア内や都心での異なる活動を結ぶ拠点となるエリア

新しい価値： 交流・共創の価値

商業者・フリーランス・研究者・学生・市民（買物・市民活動等）等が交流・共創し、新たな活動やスモールビジネスのイノベーションが起こる 等

●担うべき役割

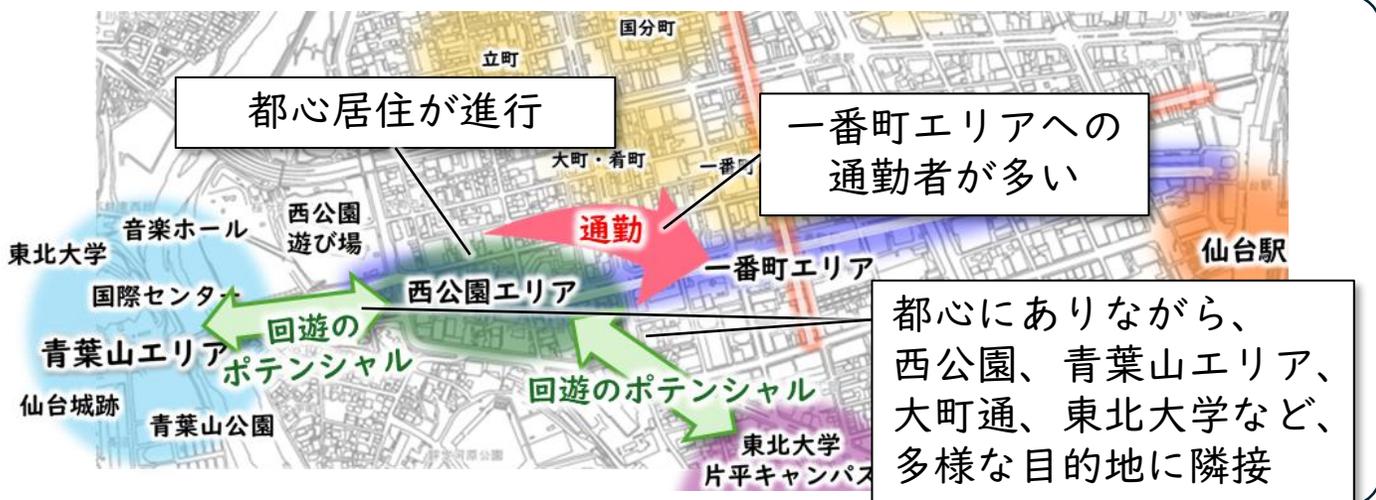
様々な活動を掛け合わせる交流拠点など人が集う場を設け、交流・共創を誘発するエリアとなることを目指す。

6. 青葉通エリアのコンセプト案の検討状況について

(7) 西公園小エリアのコンセプトのベースとなる考え方

●現状と特徴

職住近接の人が住み、
東北大学や博物館などの文教施設群や、
豊かな自然が広がる広瀬川や青葉山エリアなど、
多様な目的地が隣接しているエリア。



ありたい姿 仙台らしい都心型ライフスタイルを創造するエリア

新しい価値： ライフスタイルの価値

職住近接・自然と近接・
都市機能への容易なアクセス性などにより
質の高い暮らしができる 等

●担うべき役割

質の高い暮らしを送れる環境を整えると共に、
周辺の自然や文化スポットへの回遊の拠点となることで、
都心型ライフスタイルを創造するエリアを目指す。